

〈夏研修会報告〉

福岡支部研修会報告

筑紫中央高校 深堀 美郷

令和五年七月二六日（水）福岡魁誠高等学校において、「ICTを活用した授業実践」の研修が行われました。

【研修内容】

- ・グループに分かれ、ICT機器の授業実践例の紹介
 - ①グループ内で簡単な自己紹介
 - ②自分の授業実践例を紹介していく
 - ③授業の単元名、ICT機器を授業のどのタイミングで使うか
 - ④学習プリント等の説明
 - ⑤グループ内での質疑応答、情報交換
- グループのメンバーを替え、①～⑤を行う。
- ・研修後には、紹介した各学校で使用している動画やスライド、ワークシート等のデータの共有も行った。

【ICT機器を活用した授業実践例】

- ・Jamboardを使用して鑑賞し、学習プリントにまとめる。
- ・動画をClassroomに上げ、生徒が見たい時に範書動画を見て書く。
- ・google図形描画を使用し、散らし書きの構成を考える。
- ・Kahoot!を使用し、前回の授業内容復習クイズを行う。

- ・紙媒体での授業プリントの配布は行わず、Keynoteを使用し、Classroomにて提出する。
- ・Google Formsを使用し、授業内容に関するアンケートを取り、授業内容に反映させる。

【研修を通して】

今回の研修の中で驚いたのは、各学校の生徒の実態によって活用方法は様々であるということです。プリントは配布せず、主にICT機器を使って授業を進めている学校もあれば、ICT機器（クロームブック）が書道教室から離れた場所にあり、渡すと遊びに使ってしまうため、なかなか実践が難しいと感じている学校もありました。そういった実態を知り、教員同士で一緒に活用方法や改善策を考えられたことは、大変有意義な時間でした。ICT機器を使うことが目的ではなく、生徒が学びを深める手段として今後も活用していきたい、ICT機器によってより効果的な授業となるよう模索していきたいと感じました。



〈研修会報告〉

令和五年度 夏季研修会報告

福翔高校 谷川 彩菜

令和五年七月、宗像ユリックスにおいて福岡県書道教育研究部会、夏季研修会が行われた。新型コロナウイルスの影響も次第に落ち着きを見せはじめ、数年ぶりに県内の書道教員が一堂に集まっの研修会となった。

前半は、授業作品展の作品選出と鑑賞会が行われた。各学校の工夫を凝らした作品を鑑賞しながら、他校の先生方と授業の進め方や使用した道具などについて情報交換をすることができた。今後の授業に活かせる良い刺激をもらうことができた。

後半は、高口指導主事による講演会が行われた。「カリキュラムマネジメントの一環としての指導と評価」をテーマとした内容であり、これからの教育における評価の在り方についてお話いただいた。学習評価について近年指摘されている課題をもとに、丁寧な解説を聞くことができた。学習評価とは学校における教育活動に関して行われるものであり、生徒の学習改善につながる評価にすることが重要であることなど、評価の在り方について考えを整理することができた。

講演後は、具体的な指導計画を用いて班ごとに評価規準を作成した。難しい作業ではあったが、班内の先生方と試行錯誤する中で自身の評価規準の幅が広がったように感じた。また、一人では気付けなかったことに気づかされ、授業の進め方に関する新たな方法を知ることができた。ど

の班も活発に意見交換がなされ、非常に充実した時間となった。
コロナ禍においては、Zoom等のテレビ電話アプリを使う機会が増えたことでネット環境の利便さを実感し、人と直接会わなくとも十分ではないかと感じた時期もあった。しかし、それもしばらく経験するとネット環境でのコミュニケーションだけでは物足りないと感じ始めていた。今回の研修会を経て、人と人が直接会って話すことの良さを改めて感じた。最後に、今回の研修会に関わってくださったすべての先生方に感謝の意を表し、研修報告いたします。



へキャリアアップ講座報告

キャリアアップ講座に参加して

福岡魁誠高校 平岡 直

令和五年八月七日（月）、福岡教育大学にてキャリアアップ講座が行われ、受講した。参加者は十名に満たない少人数での開催であった。

講座の内容は書道鑑賞力・実技力養成講座である。受講者の専門教科の資質、能力の向上を目的として行われた。内容は福岡教育大学が所蔵している名品の鑑賞、手紙の解説、書道パフォーマンス鑑賞、書道教員として現場での課題や悩みについての構成で行われた。

福岡教育大学の所蔵品の鑑賞は、中林梧竹の作品をはじめ、山本竟山の作品を鑑賞した。中林梧竹の作品は、年代ごと、揮毫場所によって作品の趣が異なり、書家としての知識や学びの深さ、芸術にかかる感情の起伏の変化を感じさせられた。特に中国に渡り、書を学んだあとの作品はその影響を色濃く受け、学んだものに対するアウトプットの速さ、深さを感じさせられた。その中の作品で隷書のような字形をもち、どこか篆書のような雰囲気もあり、独特な趣を感じる作品もあった。左払いのよくな起筆はとてもユニークであり、書家としての自由な発想をも感じた。

また、山本竟山の作品は基本的な作品の形式を学びながら、揮毫された文字が何と書かれたのかを解説していった。山本竟山の作品を鑑賞しながら感じたことは、書かれている内容の重要性である。自分自身、作品を書く際に、こういった文字を揮毫するのかを、当然吟味するが、どうしても字面を考えてしまう。言葉の意味よりも、文字の造形、筆遣いで魅せやすい文字を優先してしまうくらいがある。しかし、竟山の作品は書

かれている内容を重視しており、送られる言葉のもつ意味こそが重要であるように感じた。かつての書家達が言葉に対する知識が深く、書道以外の知識を多くもっていたかを痛感させられた。自分の書作、一教員として、多くの知識や学びの上に指導しなければならないと改めて感じた。今後も自分への戒めとして心に留めておきたいと思う。

手紙の解説は比田井天来から田中松太郎に贈られたものを題材として扱った。田中松太郎は鳴鶴四天王の一人でこそないものの、日下部鳴鶴と交友があり、その弟子である比田井天来とも交友があった。手紙の内容は天来が松太郎に詫びを入れる内容であった。日下部鳴鶴より、客人として歓待するよう言われていたにも関わらず、自分が家におらず、外出をしていたことについてであり、日常のどこにでもあるような内容であった。比田井天来とえば、書を学ぶ者にとっては崇高的な感がある書人であるが、なんとも人間臭い内容であった。手紙の文字は詫びる文章であること、天来より松太郎のほうが年上ということもあり、丁寧に書かれている印象を受けた。

書道の教員としての情報交換は、今の自分の現状を考えさせられるものであった。時間的に余裕のある、夏休みの期間に改めて考えることは有意義であった。

本研修に参加し、最も感じたことは、ゆつくりと書に触れる時間を作ることの大切さである。現在、教員としての雑務に追われ、書に触れる時間を費やすことがほとんどできておらず、筆に触れるタイミングは部活動での指導だけである。とても書を学ぶものとして足りるものではない。忙しさを言い訳にせず、書に費やす時間を確保したいと思う。

末筆ながら、本研修をご指導くださった服部先生に心よりお礼申し上げます。結びといたします。

〈研修会報告〉

令和五年度福岡県書写書道教育研究大会

鞍手高校 福岡 千波

令和五年八月二十三日(水)に標記の大会が福岡教育大学アカデミックホールで開催されました。本年度の研究主題は「これからの書写・書道教育を考える」小・中・高等学校の教育実践を通して」であり、福岡県立青豊高等学校・岡部桂子先生の令和四年度部会事業・研究授業の紙面発表も含め、小・中学校の実践報告を主に発表がなされました。

はじめに、久留米市立荘島小学校・鈴木日奈乃先生の実践報告である「学びを日常生活に生かす子どもを育てる書写学習指導のあり方」課題解決をするための対話活動を通して」では、パワーポイントのアニメーションを効果的に使用した文字教材を視覚的に用い、対話によって課題解決を図っていくという発表がなされました。題材は「竹笛」で、「竹」の文字単体で書写された際の書き方と、竹冠として書写された際の書き方の違いについて児童に発見させ、課題を解決させて書写を日常に生かす態度を養うという実践をされていました。また、大川市立宮前小学校・市川裕加里先生の実践報告である「自分のめあてに向かって主体的に学ぶ 子供を育てる書写学習指導」では、生徒の主体性を養うために、自分のめあてに沿った練習用紙を作成させるという発表がなされました。平仮名の結びが上手く書けない生徒は、「結び」の部分の籠字をきれいに取

トを作成するなど主体性を育む素晴らしい実践であり、高校教育にも生かすことができたと感じました。

次に、春日市立春日東中学校・秋山美樹先生より中学校書写「好きな言葉を書こう」についての発表がありました。ICTを効果的に活用し、スクールタクトという授業支援クラウドを用いて、生徒間の交流を図るという報告でした。写真を撮った作品をスクールタクト上で共有することで、他の生徒の作品を見るだけでなく、その工夫点を知ることができ、自分の作品の工夫・改善を図る生徒が増えたことや、インターネットを用いて、題材とする語句を調べたことが、題材への深い理解へつながり、良い作品を制作することに繋がったということが成果としてあげられました。

最後に、福岡教育大学元大学院生のは永恵美子さんより、『高等学校「書道」―仮名創作のための「デジタル連綿字典」の開発』という題で、研究内容とその成果である『デジタル連綿字典』の紹介、高等学校での実践事例の発表が行われました。「高野切第三種」「粘葉本和漢朗詠集」から二文字ずつの連綿で切り取り、ア行から順に整理したのになっています。仮名の創作の授業において、連綿や単体の仮名の美を教えるだけでなく、自然な連綿を書けるように指導をするのは私自身余裕がなく、難しいと感じていたので、一人一台タブレットがある今、ぜひ活用していきたいと考えています。



〈北部地区（北九州・筑豊地区合同）研修会報告〉

水墨画に挑戦！

北筑・小倉西高校 森口 真由子

「今日は暦の上では冬ですね。」

秋晴れの立冬（十一月八日水曜日）の午後、遠賀高等学校書道教室。講師の姚明先生は笑顔で示範を始めました。

実は姚先生とは福岡教育大学の同期です。卒業以来数十年ぶりに同じ空間で筆を執りました。昔と変わらず優しい笑顔で、書くことを楽しんでいる姚先生を見ると、大学時代に戻ったような感覚を覚えました。そしてあつという間の二時間が経過していたのです。

各自、半紙に書く程度の筆（硬め）と小筆を数本準備し挑戦です。まずは基本「竹」を書くことから。筆に水を含ませ、毛先に墨をつけ平皿でなじませる。滲まない紙に下方から側筆で「シュ！シュ！シュ！シュ！」とリズムよく上へと筆を運ぶ。墨のグラデーションがきれいに描かれます。水と墨のなじませ方が悪いとグラデーションが出ず、調整が難しい。数本の竹を描くと、次はそこから出ている枝葉を描く。枝は細くリズムよく、葉は右に左に広がっていきます。姚先生が一人一人にアドバイスをしてくださったので、それぞれの課題が見えてきました。先生方も勢いよく最初から立って書かれる方、しばらく試案の後ゆっくりと書き始める方など様々でした。その後、「ひよこ」の書き方を示範され、その手からさらさらとかわいいひよこが生まれていきます。

「紙の中に物語を描きましょう。」と言いながら竹の葉から滴り落ちる

水滴を飲もうとするひよこが描かれました。

「想像を膨らませ描く。」書の制作にも通じることだと思いました。最後に蓮を描く方法をご指南頂き、各自色紙に好みの題材を描いて終了。短い時間ではありましたが、充実した貴重な時間となりました。

姚先生には制作の楽しさを改めて教えていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。そして準備に携わって下さった先生方のご尽力に感謝申し上げます。



〈展覧会報告〉

第十二回北九州地区書道教員展

遠賀高校 宮越 純子

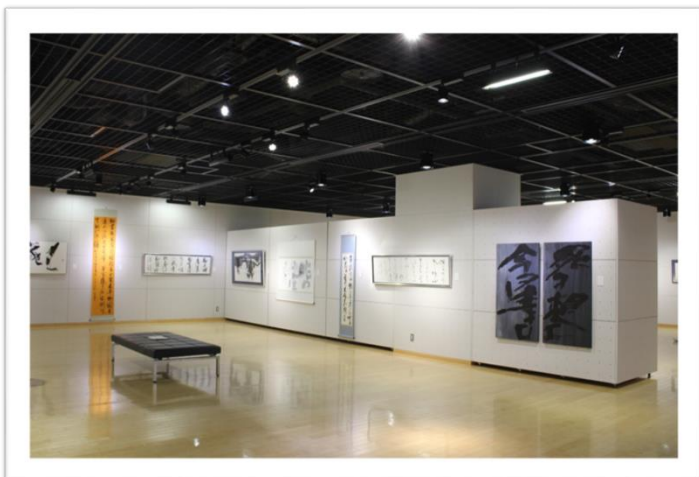
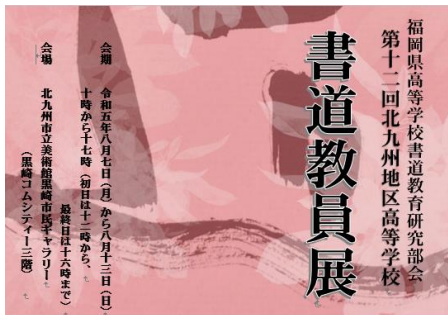
- ・会 期 令和五年八月七日（月）～十三日（日）
- ・会 場 北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー
- ・出品者 二十六名（賛助…十二名、会員…十四名）
- ・出品数 三十三作品

令和五年八月、第十二回北九州地区書道教員展を五年ぶりに開催しました。隔年開催であること、更にコロナ禍もあり、前回の開催から時間が経ってしまいましたが、初めて参加する方や満を持して出品してくださった方もおり、無事開催することができました。OBの先生方をはじめ、多数の賛助作品をいただいた先生方に、この場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

一日は台風の影響で休館となり六日間の開催でしたが、来場者数は三〇〇名以上、地元北九州地区からも多数のご来場をいただきました。年代も幅広く、黒崎駅に隣接した会場だったこともあり、通りすがりの方に見ていただくこともできました。

作品は創作が多く、大作品から小さめの作品まで多岐にわたり、個性豊かな展示となりました。最終日には、鑑賞会を実施し、OBの先生方に講評やアドバイス等をいただき、自身の書作を研鑽する場ともなりました。また、来場者アンケートにも多数お答えいただき、ありがとうございます。

ました。アンケートの結果から、次回の開催を楽しみにしていただけているようで、会員内でも共有をさせていただきました。次回開催は、令和七年度になります。来場して下さった皆様に感謝の言葉を申し上げますと共に、第十三回開催時にも、何卒よろしく願い申し上げます。



〈展覧会報告〉

改組第六回筑後支部書道教員書作展報告

ありあけ新世高校 虎本 義礼

令和五年八月十七日（木）～二十日（日）の四日間、久留米シティプラザにおいて標記書作展を開催しました。連日三十五度をこえる猛暑のなか、三七〇名の方々にご来場いただき盛会裏に終えることができました。

この書作展は、昭和五十九年（一九八四年）から毎年、福岡県筑後地区高等学校の書道教諭・講師の自己研鑽の場として年に一度開催しているもので、平成二十五年（二〇一三年）の第三十回展を最終展としておりましたが、平成二十八年（二〇一六年）より新たに「改組第一回」として開催する運びとなり、途中コロナ禍による見合わせを経て、今回で六回目を迎えました。

出品者は教員二十一名、OB・OGや筑後地区で指導されていた先生方が十名、また高口指導主事にも賛助出品をいただき、全体で三十二名、出品点数は五十点となりました。

多字数を中心に、漢字の各書体、仮名、調和体、篆刻作品に至るまで幅広い内容で、額・軸装された作品に加えて着物や布、パネルなど様々な素材に表現された作品が並びました。

また、今年も毎回ご好評いただいているご来場者プレゼントとして、ハガキや色紙、団扇や篆刻作品などの小作品を持ち寄り、抽選のうえお持ち帰りいただきました。観覧後のアンケートでは、印象に残った作品とともにたくさんのご意見を頂戴いたしました。

これを糧に、今後も自らの書作品の向上と書道教育の振興・発展に努めてまいりたいと考えています。次年度も同じ日程で開催を予定しておりますので、多くの方々のご来場をお待ちしております。



〈新規採用教員紹介〉

新規採用教員として「自分らしさ」を考える

早良高校 杠 葉奈

「自分らしくやりなさい」

早良高校に赴任して、多くの先生に言っていた言葉です。「自分らしく」とは何か。赴任して数か月、このことについて考えるなかで、二つの答えが見えてきました。

まず一つ目は、「目標を見失わない」ということです。日々の業務の中で迷ったり悩んだりすることがあります。その時はまず、自分はどうしたいのか、生徒はどうしたいのかを考えるようにしています。目標を見失うことなく今できる精一杯を尽くす努力をする中で、「自分らしく」生徒と向き合い、それぞれの「生徒らしさ」を大切にしていきます。

二つ目は、「これまでの過程を大事にする」ということです。大学卒業後、地元の佐賀県で講師を三年ほど経験しましたが、教育者としての礎を築いた福岡県で教鞭をとることを決めました。この道を歩むことになると、様々な出会いがあり、様々な教えを受けて、今の私がいます。その過程こそが、今の私が持っている「自分らしさ」なのだと考えるようになります。もちろん、新しいことを取り入れたり、グローバルな視点を持つたりすることも大切ですが、初心を忘れることなく、福岡県で教員をする決めたあの日の覚悟をもって、これからも前向きに日々を過ごしていきたいと思っています。

このように、「自分らしくやりなさい」と多くの先生に言っていた

たおかげで、この二つのことを考えることが出来ました。今の私にとって、これが「自分らしく」やるということの答えです。しかし、これからも様々な研究、修養を通して、新しい「自分らしさ」も身に付けていきたいと考えています。これからも成長し続けられる自分でいられるよう、学ぶ姿勢を大切にしていきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「新規採用教員紹介」

新規採用教員として

糸島農業高校 野田 結香

本年度より、新規採用教員として糸島農業高校に勤務させていただいております。授業がうまくいかなかったり分掌や教材研究に追われたりと、落ち込むこともあります。先生方や生徒たちに支えられ、犬や牛、ヤギに心癒され、毎日楽しく過ごすことができます。

私は保育園の頃に「好きな男の子が通っているから」という不純な理由で書道を始めました。体を大きく動かして書くことが楽しく、男の子のことは忘れ、夢中で半紙に向かっていたのを覚えています。それから約二十年間、様々な先生や友人と出会い、書道の魅力をたくさん教えていただきました。現在もそれは変わらず、いつも大会や展覧会、研修などで先生方のお話や生徒の作品から刺激を受けています。

まだまだ経験も技術ありませんが、書道が嫌いと言っていた生徒が「もう一枚、もう一枚！」と作品に向き合っている姿や、「書けたー！」と笑顔で作品を見せる姿を見ると、とても嬉しく感じます。授業外でも、毎日元気いっぱいに話しかけてくれたり、予想外の行動で笑わせてくれたり、日々パワーをもらっています。これからも様々な教育活動を通して、愛情あふれる心で生徒を支えていけるような教師になりたいです。また、生徒が「書道楽しい！」「表現するの面白い！」と思えるような授業を目指して、たくさん学び、挑戦していきたいです。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



〈新規採用教員紹介〉

念願の新規採用教員

大牟田北高校 松尾 理恵子

平素より、多くの先生方にご指導ご鞭撻をいただき、感謝申し上げます。私は、昨年度やっと採用試験に合格いたしました。合格への道のりは、本当に長かったです。(六度目の二次試験挑戦で合格)「諦めよう」と思った日々が何度あったかわかりません。しかし、書道部の生徒に「全国大会出場と一緒に叶えよう」と常に言っていたので、頑張る生徒の傍ら、自分の夢を諦めたくありませんでした。

講師時代から心掛けていることは、授業では生徒の「ワクワク感」を持続させることです。例えば、行書の単元で運筆の流れを意識させるために「目を閉じて書く」という学習をさせました。また部活動では、「書道を通して人を育てる」という自分の理念のもと、部活動の中で「仲間をつくる力」を大切にさせました。部員同士が行動や気持ちを共有し、一つの目標に向かっていけば、作品のレベルが上がり、部の一体感が生まれるということに気がつきました。おかげで部員は「北高書道部に入ってよかった」「自分がすごく成長できた」と言って卒業していきます。この言葉を聞けることは本当に教員の醍醐味であり、私の活力の源です。

現在、大牟田北高校で一年生の担任をさせていただいております。日々、色々なことがあります。良いクラスに恵まれ、「生徒がかわいい」、この生徒のためにもっと頑張ろう。」という気持ちが湧いています。勿論、担任としての失敗も沢山ありますが、持ち前の「超前向き思考」で乗り越え

ています。

本校は令和3年度から、全日制から単位制の定時制高校に生まれ変わりました。「できなかったことができるようになる子」「自分の人生の中で一番頑張っている子」など、本当に可能性を持った生徒が沢山います。私は、その生徒達の青春の軌跡に立ち会えることが本当に幸せです。これから「気概と覚悟」をもって、日々研鑽し、楽しい教員生活を送っていききたいと思っています。



(右)

令和5年度 第3回書道パフォーマンススグランプリ

九州・沖縄予選 3位入賞作品

(左)

令和4年度筑後地区教員展作品



〈新規採用教員紹介〉

初任者一年目にあたって

田川科学技術高校 黒木 歩美

今年度、初任者として、田川科学技術高校に赴任しました。常勤講師として十二年間を福岡地区の高校で過ごしてきたので、他地区である筑豊地区はどのようなところなのか、そして初めての他校の経験ということもあり、知らない学校の校風、空気感に自分が馴染めるのかという不安もありました。しかし、教科指導の先生や、筑豊地区の書道の先生方が非常に温かく迎えてくださり、私の不安を吹き飛ばしてくださりました。また、本校の初任者が私を含め五名赴任していたことも心の支えとなりました。

本校は、田川農林高校、田川商業高校、田川工業高校が統合された来年度創立二十周年を迎える新設校です。前身の三校の特徴をそのまま生かし、農業食品科・工業システム科・ビジネス科学科の三つの科を設けています。製作したものの販売をすることも多く、自分たちの作業に責任を持って取り組んでおり、将来に向けて資格取得などに励んでいる生徒が多く見られます。

私が担当している科目は、一年生の書道Ⅰの六単位と現代の国語の六単位、三年生の国語表現の六単位の計三科目十八単位です。国語の比重が大きく、教材研究に時間がかかりますが、生徒にとってわかりやすく楽しい授業になるように研鑽を重ねています。

教員として未熟ではありますが、私が大切にしていることは「社会人と

して恥ずかしくない人間」です。自分自身が生徒にとって一番身近な社会人だと思うので、社会人の見本として、真摯に生徒と向き合うことを常としています。また、生徒に対しても、卒業後に生徒が社会人として恥ずかしくないよう、大人としてのマナーや挨拶などを指導していきたいと思っています。これから精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



〈新規採用教員紹介〉

教員生活、新たなスタート

嘉穂高校 高野 瑞貴

四月に嘉穂高等学校に赴任してから半年が経ちました。私はこれまでに他校で三年ほど非常勤講師の経験をしてきましたが、新しい環境の中、初めての分掌や研修等は慣れないことも多く、沢山の先生方に支えられながら充実した日々を送っています。

嘉穂高校は普通科普通コース、武道・日本文化コース、理数科のほかに附属中学校のある学校で、自分たちで自分たちの学校を創り出すことができる、自主自立した生徒が多くいます。今年はコロナ規制も緩和し、文化祭も一般公開含めて二日間行われました。活発な生徒の姿と地域の人々の期待が溢れ、これからの教員生活に向けて身が引き締まる思いになったのを記憶しています。

その中で私は「書道Ⅰ」「書道Ⅱ」「書道Ⅲ」の授業を担当し、書道部顧問を務めさせていただいています。日々、試行錯誤ではありますが、生徒が書道を通して自分と向き合い、人と向き合い、社会と向き合うことができる力を身に付け、そこで培われた人間性や感性、創造性が、よりよい人間関係の構築や新しい価値の創造につながるような指導を目指し、努めているところです。また、書道の魅力や楽しさをもっと多くの生徒や地域の人々に伝えられるよう、部活動もさらに活性化させていきたいと考えています。

まだまだ未熟で至らない点もあるかと存じますが、今後ともご指導ご

鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

最後に、私の高校時代・大学時代の恩師である先生方、これまでのご指導、改めて深く感謝申し上げます



〈研究授業〉

第七十一回県研究授業を終えて

苅田工業高校 福元 隆寛

一はじめに

今年度、苅田工業高等学校で、第七十一回研究授業を実施しました。今回研究授業にあたり、「行書の創作く意図に基づいた表現く」を単元として設定し、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマに準備を進めてきました。以下に、内容を示し、報告とさせていただきます。

二 概要

(一) 実施学校 福岡県立苅田工業高等学校

(二) 日 時 令和五年十二月六日 水曜日 二・三時限

(三) 対 象 機械科一年A組十五名

(四) 科 目 書道Ⅰ

(五) 単 元 名 漢字の書 「行書の創作く意図に基づいた表現く」

(六) 本単元までの流れ

1 書道の基本(書道Ⅰの導入)

2 漢字の書

① 楷書の学習

〔九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑、建中告身帖、始平公造像記〕

② 篆刻の学習

③ 行書の学習〔蘭亭序、争坐位文稿〕

三

研究授業(本時)の流れ

(一) 前時の振り返り

- ・ワークシートやパワーポイントで自身の表現の意図や書を構成する要素について確認し、前時の活動について振り返るとともに、前時に制作した作品例とその解説を共有することにより、自身とは異なる新たな見方・考え方(感じ方や捉え方、考え方)に気づく。

(二) 構想・工夫の見直し②

- ・用筆・運筆から生み出される書の表現性について、「変化」「律動」「性情」から理解する。
- ・書を構成する要素を踏まえて、作品制作②で表した作品について表現 性(変化、律動、性情)から考え、必要な改善点をワークシートに記入する。

(七) 本単元の学習内容

- ・これまでの学習を生かしながら「風」字の行書創作の作品制作に取り組ませる。

1 本単元の流れ

① 表現の意図を考える

② 書を構成する要素から考える

③ 表現性から考える・・・・・・本時

「変化」「律動」「性情」で説明してみる。

④ 表現効果を考える(表現の意図の再考)

意図に応じた表現ができているか

(三) 相互鑑賞・意見交換①

・表現の意図、構想・工夫、構想・工夫の見直し①②で記入した記述内容と作品制作①②で表した作品の画像をタブレットで共有した後、相互鑑賞・意見交換を行い、表現の意図に基づく構想の実現に向けた他者からのアドバイスをワークシート（ICT）に記入する。

(四) 構想・工夫の見直し③

・相互鑑賞・意見交換①を通して、他者の見方・考え方（感じ方や捉え方、考え方）に触れることで広げた自身の見方・考え方（感じ方や捉え方、考え方）を働かせながら、表現性の観点からこれまでの構想・工夫の過程や作品を再度見直し、自身の表現の意図に基づく構想の実現のために必要な改善点をワークシートに記入する。

(五) 中間自己評価

・相互鑑賞・意見交換①を通して他者の作品や構想・工夫の取組から感じたことを踏まえて、自身の構想・工夫の取組を振り返り、自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けた今後の活動への見通しをワークシートに記入する。

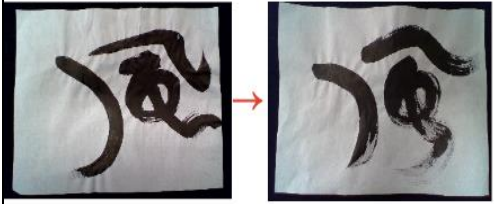
(六) 作品制作③

・相互鑑賞・意見交換①や構想・工夫の見直し③の内容を踏まえ、「風」字について、自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けて作品を表す。

(七) 本時のまとめ

・作品制作③で表した作品をタブレットで撮影し、デジタル教

【(二)・(三) における生徒の ICT 成果物】



【相互鑑賞・意見交換①】

「書を構成する要素」及び、「表現性」の観点からアドバイスを具体的に記入しよう。

「書を構成する要素」・・・ピンクの付箋

「表現性」・・・青色の付箋

淡墨を使ってみたらよりさわやかな感じが出ると思う。

一面目の位置を左にして二面目の払いの部分を増やして、海筆の部分を増やす。右上に余白をいっぱい作ると良いと思う。

太細の変化（特に海筆）を増やして書いていたら軽い感じがでてさわやかさにつながって良いと思う。

一定のスピードで書いている感じがするので、速速の変化や一本の線でもリズムを付けて書いてみたほうが良いと思う。

①構成	②字形	③鑑賞
右下の余白を無くす。	全体的にもと曲線的にする。	さわやかさを出すために海筆を入れる。

→

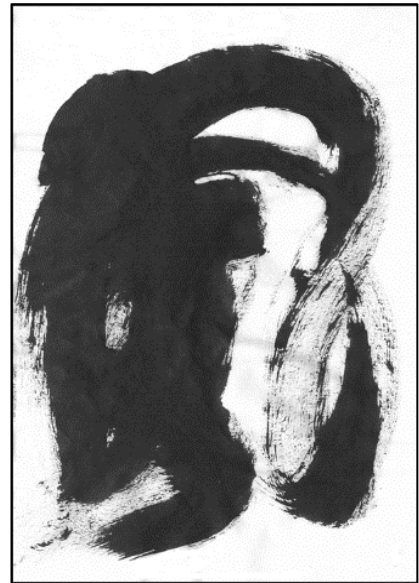
①性質	②種類	③変化
さわやかさを出すために海筆を入れる。	全体的にもと曲線的にする。	さわやかさを出すために海筆を入れる。

材に貼り付けた後、次回の意見交換の活動とその後の流れについて確認する。

【生徒の作品②】



【生徒の作品①】



四 研究授業を終えて

今年度の研究授業では、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマとし、本単元における指導と評価の計画において工夫したことは三点あります。

①生徒が学んでいることの意義や価値を自覚しながら学習活動に主体的に取り組めるよう、ワークシートを効果的に機能させる指導を工夫するとともに、学習の過程を適切に評価できるようにすること。

②指導に生かす評価と記録に残す評価の場面を精選し、評価の場面に適切に位置づけた授業を計画し、生徒が自らの学びを調整しながら粘り強く学習活動に取り組むことにより、生徒の学習改善及び主体的に学習に取り組む態度の向上につながるよう、評価の視点から効果的な指導を見直すこと。

③学習評価を教師の指導改善につなげること。

午後からの協議会、事後アンケートでは多くの先生方から貴重なご意見をいただきました。また、自身の反省として、「授業計画の中で時間配分が上手くいかなかった。」「ICT機器の活用については当日の授業の中で十分にいかすことができなかった。」等あります。今後は今回いただいたご意見や自身の反省点を見直し、生徒の実態応じながら工夫、改善していきたいと思っています。

〈研究授業報告〉

令和五年度第七十一回県研究授業を参観して

戸畑工業高校 福元 沙耶香

令和五年十二月六日、「行書の創作」意図に基づいた表現」を単元とし、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマとした県研究授業が福岡県立苅田工業高等学校にて行われました。高校教育課高口指導主事、若松高等学校早川教頭先生、福岡教育大学和田教授をお迎えし、五十三名の参加のもと本当に充実した一日を過ごすことができました。

田中会長からの「研修の大切さ」「学びたい！という気持ちを忘れないこと」「授業の中で芸術を好きにさせる・興味を持たせる・関心を沸かせる」という熱いお言葉に、久しぶりに身の引き締まる思いでした。

今回の研究授業は、文化庁の全国研修会との絡みで準備・計画・実施と計り知れない苦労があったと思います：きめ細かな学習指導案やワークシートの作成、主体的に学習に取り組む態度の見取り方を示したスライドの作成等、苦労を経て出来上がったものだからこそ私たちにもたくさんものを示唆してくれたように思います。

実際の授業は、生徒が十五名。「風」字の行書創作の授業でした。書く時間よりも構想・工夫の見直しや相互鑑賞、意見交換に多くの時間を使い、本当に「よく考え」ながら作品を作っていく姿を見ることができました。「律動」「性情」といった難しい用語を生徒もよく理解し、使っていたので、日頃からの指導力の高さを感ずるとともに、生徒のレベルの高さ

にも感心しました。参観者の人数の方が圧倒的に多く、緊張からなかなか書くことができない生徒も見受けられましたが、多様な作品が生まれていて、表現力の高さにも驚きました。日々の積み重ねがいかに重要か、改めて感じさせられる授業でした。全員が主体的に学習に取り組んでいたように思いましたが、今回の彼らの作品やワークシートの評価がどのようなものになったのか、ものすごく気になります…。その評価の部分の研修もできたらいいなあと個人的には思います。

研究協議の中での石津先生の言葉が印象に残っています。

『細やかな種がほんとうにたくさん蒔かれていた。』

《生徒が『先生の授業、楽しいっす！』と言っていた。これに尽きる。》
午後の研究協議も含めて、本当に多くのことを学ばせてもらいました。自身の授業改善も行い、自分の生徒に還元していきたいと思っています。

最後に、今回の研究授業開催にあたり、快く会場を提供してくださった苅田工業高等学校、福元先生をはじめ部会の関係の先生方に感謝申し上げます。県研究授業の参観報告とします。



「全高書研参加報告」

第四十八回全日本高等学校書道教育研究会茨城大会

八幡工業高校 坂本 順司

令和五年十一月九日(木)・十日(金)に、茨城県水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で標記の大会が開催された。本県の部会からは副会長と総務・研究部長の二名が参加させていただいた。大会テーマ『学びに向かう力と人間性を育む書道教育』を感じる・伝える・高め合う授業を目指して』の下、左記の授業研究、研究発表等が行われた。

●授業研究および研究協議

A 【漢字の書】 学校設定科目 「篆書から篆刻へ ―筆意を生かした篆刻制作を目指して―」 水戸葵陵高等学校 教諭 辻 哲一

B 【漢字仮名交じりの書】 書道Ⅱ 「意図に応じて創造的に構想し表現を工夫する授業実践 ―グループによるカレンダー制作を通して―」

茨城県立麻生高等学校 教諭 青木 理楓

C 【漢字の書】 書道Ⅰ(事前録画) 「古典に基づいて構想し表現を工夫する力を育む学習指導 ―自詠五言句の作品制作を通して―」

茨城県立水戸第一高等学校 教諭 藤枝 咲絵

●研究発表および研究協議

A 生活や社会の中の書と関わる生徒の主体的活動

・【漢字かな交じりの書】 書道Ⅰ 「産学連携としての書道教育―那珂湊のまちづくりと共に歩む本校の取り組み―」

茨城県立那珂湊高等学校 教諭 香取 潤哉

・【漢字かな交じりの書】 書道Ⅰ 「地域に向けた高校書道教育の発信

―授業作品展『高工展』の実践を通して―」

群馬県立高崎工業高等学校 教諭 國定 貢

B 意図に応じた表現を構想し工夫する活動

・書道Ⅱ 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な展開に向けたICT活用実践事例」

京都府立鴨沂高等学校 教諭 霊園 淳

・【漢字の書】 書道Ⅱ 「効果的・効率的な篆刻指導 ―ワークシートの活用と布字の工夫―」

C 書の伝統と文化の価値を考え、書の美を味わう対話的な活動

・【仮名の書】 書道Ⅱ 「鑑賞に表現を関連させた授業づくりの実践 ―三色紙の鑑賞から書の伝統と文化を学ぶ―」

茨城県立水海道第二高等学校 教諭 打越 茉衣

・【漢字の書】 書道Ⅰ 「探究的に考えるための技法を取り入れた鑑賞活動 ―根拠を明確にしながら古典の良さを分析するために―」

北海道有明高等学校(遠隔授業配信センター) 教諭 土佐 弥

報告者は「授業研究および研究協議C」・「研究発表および研究協議A」に参加。

「授業研究および研究協議C」の学習単元は七時間。自詠五言句の作成は教科横断的な要素を伴うが、藤枝先生ご自身が指導。作品制作においては、生徒自身が創作の土台として選んだ古典からの集字(タブレット使用)。「表現の構想・工夫」とその「見直し」の中では、特に用具・用材の特徴と表現効果に着目させ、運筆の速度や筆圧の変化による線質の変

化について、「思考・判断・表現」の観点に重きをおいた授業を展開。大会二日目の全体会の講評(文科省教科調査官)では、ICT機器使用と、従来からの板書とのバランスの良い展開であったことが評価された。

「研究発表および研究協議A」の香取先生のご発表は、那珂湊高等学校グランドデザインのもと、産学連携事業の一環として、地元商店との協働的な取り組みで、クリーニング店やパン屋の看板作成を行うというもの。フィールドワークを重ねるなど、実践的な取り組みであった。

「研究発表および研究協議A」の國定先生のご発表は、高崎工業高等学校が長年取り組まれている授業作品展、『高工展』の取組を発表された。この「書道」二単位は第三学年で全生徒が履修。作品題材の選定においては、三年次生徒だからこそ表現できる豊かな内容で、高校三年間の様々な経験が紡ぎだす内容であった。

●全体会ブロック協議

大会二日目、全体会のブロック協議では、特に次年度の川崎特別大会(神奈川県川崎市)を機に、従来の「授業研究および研究協議」に加え、「各ブロック発表研修 分科会・研究協議」を行う計画が示された。このことについて、九州・沖縄ブロック協議では、各県の人員的な環境を考慮し、発表者の選出順をどのようにもちまわるのかについての話し合いがなされた。結論、現段階では数年に一度、本県からの発表者選出が求められている。

この件については、本県部会の活性化に繋がることでもあろうが、今後の部会会議等を通じ、また何より本学会会長、顧問の先生方のご指導・ご助言を賜りながら検討させていただきたいと考える。

2024(令和6)年 第49回全日本高等学校書道教育研究会 川崎特別大会

【大会主題】 「高等学校芸術科書道とは」

～高等学校教育の中における書道教育の役割を改めて考える～



全高書研 <http://zenkoushoken.sun.bindcloud.jp/> より

〈全国大会報告〉

第四十七回全国高等学校総合文化祭（鹿児島大会）報告

須恵高校 田中 幸二郎

令和五年八月二日から三日にかけて、鹿児島県薩摩川内市で二〇二三鹿児島総文の書道部門が開催され、本県から十三名の生徒が参加した。

全国大会では作品規格の規定が改訂され、これまで最大三尺×八尺サイズまで認められていたのが今回より最大で二尺×八尺サイズまでとなった。それに伴い、作品制作の幅に制限がかかった形となったが、その分、作品の方向性は定めやすくなったとも言える。

福岡県では県展サイズや全紙サイズが一般的であるため、生徒にとって二尺×八尺サイズは九州大会や全国大会のような機会であれば書くことはあまりない。しかし、県によっては二尺×八尺サイズで書かせるのが一般的である都道府県もあるため、そうした県に比べれば、一歩出遅れた状態からのスタートとなる。そのため、春休みを利用して何度も手本を練り直し、出場する生徒と共に細かく試行錯誤を重ねながら作品制作を進め、やつとの思いで作品を完成させることができた。

そして迎えた全国大会初日。展示会場に足を踏み入れるといつも息を呑むような空気に包まれた感覚を覚える。大胆で奔放な作風の北海道の作品をはじめ、各県の特徴が表れた作品が会場を彩る。一文字のみの龔宝子碑の臨書作品があるかと思えば、数百文字に渡る細字作品もあり、福岡では見られない書風の創作作品など、多種多様な作品に大いに刺激を受けた。

二日目、バスで会場であるサンアリーナ川内に移動する。開会式を終え、生徒達は鹿児島の屋久杉を使用した栞とコースターの制作を通じた交流会に参加した。本校の生徒も最初は初対面の子との交流に、臆している様子ではあったが、さすがは高校生。会が始まり、しばらくしてから様子を見ると難なく他県の代表生徒と打ち解けており、楽しいひと時となったようであった。しかも、話を聞けば、全国大会後にも個人的に遊びに行くほど仲良くなったとのことだった。書を通じて人が繋がる、そんな書という文化の魅力を改めて実感できた交流会となった。

三日目、SSプラザさんだいにて講評会が行われた。講評を行うのは高等学校文化連盟全国書道専門部理事 栗山仁司先生。各県代表の作品を「線質」「字形」「構成」「意図に基づいた表現」の観点から解説され、福岡県からは福岡西陵高校の徳重さん、八幡中央高校の浜崎さんの作品が取り上げられた。講評会後には審査結果が発表され、山門高校の山下さんが特別賞・菅公賞、城南高校の荒田さん、須恵高校の山口さんが特別賞を受賞し、盛況のうちに大会は終了した。

全国大会の中での様々な経験は、生徒の大きな財産になったに違いない。大会で出会った生徒達が次の文化の担い手になってくれることを切に願うばかりである。

末筆に大会の全ての関係者の方々に御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。



〈九州大会報告〉

第七回全九州高等学校総合文化祭大分大会報告

青豊高校 岡部 桂子

令和五年十二月八日（金）～十日（日）に大分県で行われました、第七回全九州高等学校総合文化祭へ参加して参りました。

○十二月八日（金）

総合開会式（於…ホルトホール大分）

○十二月九日（土）

席上揮毫大会（於…レゾナック武道スポーツセンター多目的競技場）

生徒交流会（於…大分県立情報科学高等学校）

○十二月十日（日）

作品講評会・表彰式・閉会式

（於…大分県消費生活・男女共同参画プラザアイネス）

席上揮毫入賞作品鑑賞（於…大分県立美術館OPAMアトリウムプラザ）

【席上揮毫大会】

大分駅より皆でシャトルバスにて会場に向かいましたが、大変立派な競技場で、生徒達はのびのびと作品作りができたと思います。臨書作品で九州大会の出場権を獲得しても、席上揮毫大会では全員が当日配布された課題を、二時間以内に創作し仕上げることになります。大分県や長崎県は創作ではなく臨書作品のみがOPAMの展示会場に並んでおり、当日揮毫風景を拝見し、生徒の皆さんの創作力に驚き、日々臨書と共に創作にもかなり力を入れて練習をしているのだらうと目を見張りました。

県ごとに書風があると感じましたが、個人的には王鐸や傅山など明清時代を感じさせる三～四行の行草、配字・字の大小がやや揃い整然とした調和体、天発神識碑風、楊峴風、仮名の扇面といった作品に注目しました。これほど完成度の高い作品を、高校生が揮毫する様を見て心底驚くと共に、普段の部活動でいかなる取組をされているか、勉強させて頂きたいと感じました。

【生徒交流会】

「竹細工に作品を飾ろう」という趣旨の元、「かぼす」や「からあげ」など大分県の名産が名付けられた班に分かれて、和紙葉書に好きな言葉を書き、大分県の特産工芸品である竹細工に書作品を飾り、鑑賞し合いました。中には班で仲良くなった生徒同士が、互いの名前を葉書に寄せ書きするといった光景も見られ、生徒達にとって大変思い出深い交流となったと感じました。

【全体を通して】

今回は大会前に錬成会を設けて頂き、生徒達はより絆を深めることができましたと感じました。関係の先生方に心から感謝致します。最終日の作品講評会が大変印象的で、書道における「守破離」を生徒と共に改めて勉強させて頂きました。簡単に恐縮ですが、本大会でご尽力頂きました全ての先生方、保護者の皆様、大分県運営関係の皆様に心よりお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

